

副病院長／産科・婦人科教授／科長

小林 裕明先生

1985年九州大学医学部卒業。同大学医学部婦人科学産科学教室に入局。カナダ留学を経て、2009年より同大学医学部婦人科学産科学教室准教授、2016年から現職を務める。手術支援ロボットを活用した手術の普及に尽力している。



1 モデルを用いたロボット支援手術指導の様子 2 鉗子は患者の腹腔内で術者の指先と同様に動く



「4つの領域には、専門家がそろい、年々増えてきた若手産婦人科医の育成にも尽力しています。県内の産婦人科施設と緊密に連携し、『女性が元気の鹿児島県』を実現する医療を提供したいと思っています」

妊娠・分娩をサポートする周産期、顕微授精に至る種々の不妊治療、婦人科腫瘍の治療、思春期・更年期障害を含む女性医療など、広領域で女性の健康を支えている産科と婦人科。特に婦人科がんに対する高難度手術、腹腔鏡やロボットによる低侵襲手術が強みだ。近年、婦人科がん発症は若年化の傾向に。「妊孕性温存手術や高難度ロボット支援手術に取り組み、根治的かつ繊細な病巣の切除で、術後の生活の質に配慮した手術を提供しています」と小林裕明産科・婦人科教授は話す。

産科／婦人科

体への負担が少ない、先進的な医療を推進
それぞれの世代で女性の生涯をサポート

腫瘍、周産期、不妊・内分泌、女性ヘルスケアの4領域を有機的に結合させて質の高い医療を提供している同院の産科と婦人科。特に婦人科がんでは、手術支援ロボットを活用した精密で低侵襲な手術を推進するなど、より先進的な医療に取り組む。

手術支援ロボットを推進

より高精度で低侵襲な手術が可能に さらなる安全をめざして指導・評価がスタート

ロボット支援手術とは、3D視野のもと鉗子をこまやかに動かして治療を行う手術で、従来の腹腔鏡手術をさらに向上させる革新的な技術。九州で早期に婦人科のロボット手術を行った小林先生は、草分け的存在だ。2022年11月には2台目として新たに手術支援ロボットを導入。翌12月には、同機を用いた婦人科手術を小林先生が執刀した。また、小林先生がセンター長を務めるロボット支援手術に特化した部門が院内に設置され、婦人科に加えて泌尿器科や消化器外科、呼吸器外科、小児外科の5つの科による連携体制が築かれ、遠隔医療や若手医師の教育システムの開発に取り組むそうだ。



ロボット支援手術の様子。術者はコックピットでアームを操作して手術を行う。同院では術者の教育にも力を注いでいる

鹿児島大学病院

TEL: 099-275-5111

所在地: 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

駐車場: 有(607台)

休診日: 土/日/祝/年末年始(12月29日~1月3日)

M A P: P159 B-3

ウェブ版はこちら

